


平成20年度 一橋大学大学院経済学研究科 オリエンテーション

このPOWERPOINTのスライドはあくまで説明のための材料で、経済学研究科の正式な資料ではありません。履修ガイド・学生便覧と内容が食い違う場合は、履修ガイド・学生便覧の方を信用してください。

2008年4月4日
祝迫得夫

履修方法全般についての注意

- 学生便覧をよく読む
 - 分からないことは大学院教育専門委員／研究科事務室に質問する
 - 個々の先生に質問しても、正しく理解しているという保証はありません。
 - 単位の過不足や修了要件の問題は、場合によっては取り返しのつかない場合があるので、くれぐれも注意して、余裕を持って行動してください。
- 



第1部 修士課程編

修士修了のための要件

- 授業を履修し必要な単位数を取る
 - そのうち幾つかはコア科目をとり、なおかつ一定以上の成績を挙げる必要がある
- 2年目に主ゼミ(=指導教員)を決めて履修する.
- 指導教員の指導のもとで修士論文を書く.
- 修士論文を提出し、修論審査を受ける.

授業の履修についての要件

- 修士修了に必要な要件
 - 授業単位32単位以上
 - 演習以外は、半年週1回の授業で2単位
 - 研究者養成と修士専修で微妙に要件が違います
- 演習(主ゼミ): 6単位/12単位
- 通常の授業: 20単位以上
 - コア科目(上級XX経済学; 中級OO経済学)
 - 2科目(4単位)以上に合格する必要
 - さらに修士修了のためには1科目, 博士課程進学のためには2科目でB以上の成績をとる必要
 - コア科目以外の普通の授業

授業の履修についての要件(続き)

- 副ゼミ・自主ゼミ
- ワークショップ
 - ほとんど全ての教員が、一つないしは二つのワークショップに所属.
 - 修論審査の場に使われるケースも多い
- 入学以前に400番台科目を履修している場合には、必要単位数に算入できる

演習(主ゼミ)=指導教員の決定

- 大半の教員は、M1の終わりからM2の4月にかけてゼミでの受け入れを決定する。
 - 経済史などを専門とする教員には、1年目からゼミでの指導を認める・要求している人もいる。
 - 個々の教員は、ゼミでの受け入れに関し、履修科目等で何らかの要件を要求していることが多いので注意。

博士進学のための要件

- コア科目を2科目以上Bで、合格すること。
 - コンブ試験は上級科目の履修を前提としているので、実際は少なくとも1つは上級科目である必要。
- コンブ(comprehensive exam)に最低1科目合格すること。
 - ミクロ、マクロ、政治経済学、統計・計量、経済史の5分野
 - 9月(大学院入試と同時)と2月、年2回。
 - 1科目につき3回まで受験可能
- 修士論文を提出し、修論審査を経た後、進学試験(面接)に合格すること。

Q:博士進学にあたって、修士専修と研究者養成で条件に違いはありますか？

A:必要な授業単位の要件が微妙に違いますが、実質的な違いはありません。

Q:上級科目と中級科目、どちらをとるべきでしょう？

A:自分の実力次第ですが、博士課程に進学したいなら、必ず上級科目をとってください

Q:コンプは何科目受験するべきですか？

A:博士論文の指導を受けたい先生の方針によります。

A:現実問題として、オールラウンド・プレイヤーの方が進路の可能性が広がります。



第2部 博士課程編

博士課程修了のための要件

- 3年以上在籍し, 20単位以上を履修
 - 「ゼミ18単位(6単位x3年)」を含むので, 実質授業1科目
 - この条件を満たせば, 少なくとも単位取得退学は可能になる.
 - 条件を満たし, なおかつ教員の推薦が得られれば, 2年間で終わることも可能.

- 博士論文の執筆
 - 期間の標準は3年~4年
 - 明確な基準はないが...
 - 何らかのパブリケーションは必要
 - 全ての論文が出版されていなくても良いが, 3本程度の論文は必要

博士論文の執筆のアウトライン

- コミッティの設立(複数の教員)
 - プロポーザルを提出して了承してもらおう
 - 進捗状況を毎年度報告
- } 博士論文執筆のプロセス
-
- 研究科委員会での議決(1)
論文審査に入ることを了承してもらおう
 - 推薦者二人
 - 教員5人からなる審査委員会を設立し, 審査に入る.
 - 口述審査 → 大半は多少の書き直しをさせられる
 - 研究科委員会での議決(2)
審査報告を行い, 博士号の授与を認めてもらう.
- } 審査のプロセス
-
- **博士!**

- コミッティーの設立は必要以上にシリアスに考えなくてよい.
- それよりも何よりも, 複数の教員に自分の研究について相談し, 研究の進捗状況を把握しておいてもらうことを常に心掛ける.
- そのためには, ワークショップに常に出席するのが早道 & 最善の道.

